

坂口 聖英 Masahide Sakaguchi

2021年6月15日 インタビュアー：乙戸将司、編集：栗原李佳・櫻井莉菜

名前、出身地、出身学部について教えてください。よろしいですか。

坂口聖英と言います。出身は長野県長野市で、出身大学は立命館大学の映像学部です。

現在の活動や研究テーマについて、お話いただいてもよろしいですか。

大学院に来てからは、ものすごく自然が豊富な所なので、海に行ったり池にいる生き物たちを見たり、そういうことをしています。研究としては、哲学や心理学、人類学というところから自分の興味のある自然のテーマを研究して深めてくつていうことに取り組んでいます。

秋田に来た経緯や秋美の大学院に進学した理由を教えてください。

最初に秋美のことを知ったのは、学部の卒業制作のときに、インタラクティブアートの形式で、粘菌という生き物を取り扱った作品を作ったのですが、そのときに粘菌や南方熊楠の研究をされてる唐澤先生が、この秋美に

らっしゃることを知って、受験することになりました。

学部ではどのようなことをしていましたか。

学部的时候は映像学部において、一年生のときはそれこそカメラを回すこととか、マイクの扱い方とか編集のやり方とか、そういうことも広く学んでいました。三、四年生でゼミ活動をするようになってからは、ずっとゲーム制作に関わっていて、例えば大きなプロジェクトだと演劇とゲームを組み合わせてみようというプロジェクトだったり、ボードゲームをオリジナルで作ったりとか、そういうことをしていました。どちらかというと、遊びを創造するというようなことを学んで制作をしていました。

大学院の複合芸術研究科に来て、制作やその他活動において、何か変化みたいなものはありましたか。

学部的时候はとにかくオリジナリティのある面白いものを作るかというところに重点を置いてたんですけど、大学

大学院在学中に展示とかコンペティションとか、そういう機会にはかなり積極的に取り組んでいきたいなと思っています。そういうところに応募させていただくには、作品の数というのがやっぱり必要で、自分が普段考えてることとか学んでいることを作品に表現して、積極的に発表する機会を作っていきたいなと思っています。先ほども述べさせていたんですが、学部的时候は勉強できなかった哲学や人類学や心理学など、そういったことも先生たちのサポートのもと、幅広く学ぶことができるので、そこが複合芸術研究科の良さだと思ってるので、そういったところで深めた学びを作品制作にも生かしていきたいなと思っています。

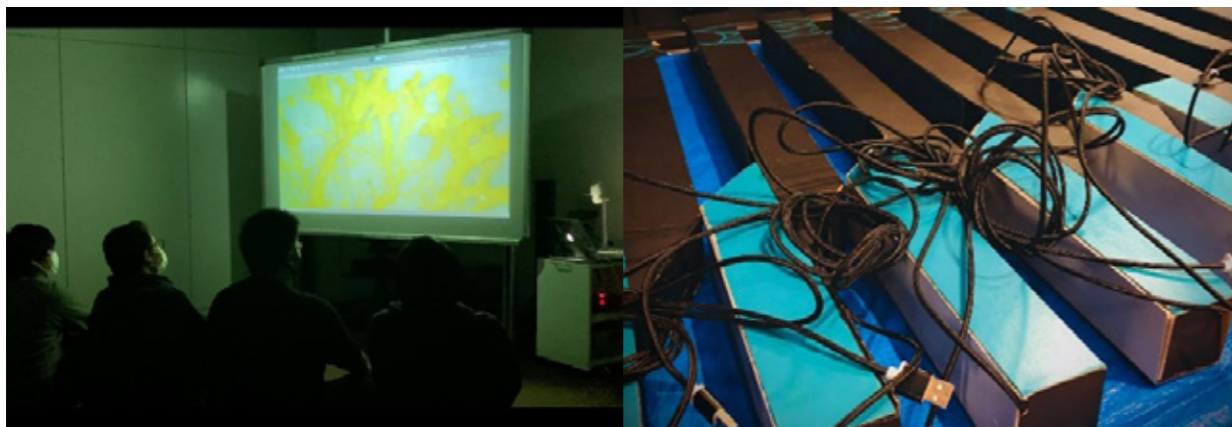
最後にオープンキャンパスを見ている人や進学を考えている人へなにか一言ありますか。

僕は美大の出身じゃないので、大学院だけ美大っていう環境に入るときに、ちょっと不安とかも感じてたんですけど、やっぱり大学院は研究をする所なので、あまりそこら辺は気にしなくてもいいのかなと思って。あと本を

読むことが好きな人は、かなり向いてるんじゃないかなと思います。アートだけじゃなくて、僕も生き物好きですし、他のものと組み合わせる作品制作とかできるので、興味がある方は是非受験してみてください。いかがでしょうか、という感じです。



(写真上) 『Cloaca Maxima』 (ボードゲーム)



(写真上) 『Communitas』

(写真上) 火線銃型コントローラー (演劇×ゲームプロジェクト)

院に入ってから、一般的に言うアート作品という方に、自然と変わってきているところがあります。あとゲーム作品の発表のときは、あまりインスタレーションとか演出というのは、展示とかでは考えないんですけど、そこら辺をかなり企画段階から考えるようになってきたというのはあります。

秋田にいらっしゃるうちにやりたいこと、行ってみたい所などありますか。

そうですね、いっぱいあります。やっぱり僕は、自然とか生き物がすごく好きなので、例えば田沢湖とか十和田湖とか、あと八郎潟とかですかね。男鹿半島にはこの間行ったんですけど、すごく水がきれいで、ヤドカリとかアサリとか、今まで見たことのないような生き物がたくさんいて、せっかく秋田にいい機会なので、自然の豊かさが残ってる所に向いて、フィールドワークしたり遊んだりしたいなと思ってます。

今後の活動・展望について教えてください。よろしいですか。

坂口 聖英 Masahide Sakaguchi

プロフィール

1997年 長野県生まれ。
2021年 立命館大学映像学部映像学科を卒業。
現在は、秋田公立美術大学複合芸術研究科に在学中。(修士課程1年生)

